

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	自転車からでしか見れない景色を手軽に味わえる「立科町 e-bike トリップ」による地域活性化事業
事業主体 (連絡先)	(一社)信州たてしな観光協会
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,138,968 円 (うち支援金 : 911,000 円)

事業内容

・サイクリングコースの作成

観光客に試乗体験してもらうことで、観光客目線でのコース作成ができ、立科町の里エリアにコースを2つ、高原エリアに9つ、里と山をつなぐ片道コースの合計12のコースを作成することができた。

・体験会の開催・説明・PR

周辺宿泊施設のオーナーと8月に当地を訪れた観光客にも実際のコースを体験していただき、モニタリングを行った。

軽井沢別荘族のための周辺観光地のPRイベント「ゆうすげの会」でも本事業をPRできた。

・告知物の制作

ポスター、フライヤーを作成し、周辺施設に配布、掲示した。台数管理や予約ができる専用のwebサイトを立ち上げた



【体験会の様子】



【軽井沢ゆうすげの会での様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

【目標・ねらい】

- ① 白樺高原に1秒でも多く滞在してもらう仕組みづくり
- ② 本事業を起点とした観光消費創出
- ③ 二次交通不便地の解消案としての可能性示唆

- ① アクティビティ施設や人気の飲食店が点在しており、二次交通不便地でもある白樺高原に新たに e-Bike+ナビを導入することで、バスの時間にとらわれずに自分たちのペースで好きな場所を身体の負担を少なく周遊することを可能にできた。
- ② 周辺の宿泊施設、観光商業施設にバイクラックを設置。本事業の e-Bike に限らず自転車客に気軽に止めてもらい誘客へつなげる動きを作ることができた。また試乗会を通して様々な年齢層や実際の観光客に試走していただくことで、コースも増やすことができた。
- ③ 観光客に体験として乗ってもらい、モニタリングすることで ATM に行くための移手段とし

ての新たな使い方も生まれた。また、本事例を長野県観光機構の交通会議で発表することで、他自治体との将来的な連携も視野に入れることができた。長野県観光機構と共同で、中山道とe-bikeを使ったインバウンド誘致の商品開発化の動きを生むことができた。

※自己評価 **【B】**

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① 降雪期までは活動を立科町の里エリアに注力し、中山道を楽しむプランとして提案。
- ② 来春からの本格稼働に向けてweb媒体、雑誌媒体での露出を高め、来訪目的に繋げる。
- ③ e-Bikeとナビを使った観光消費創出、二次交通事例解消案として興味を持っていただいた自治体と連携し相互PR、相互送客に繋げる。
- ④ 長野県観光機構と共同で、周辺自治体と連携しインバウンド誘致の商品開発を行う。

【理由】

実際の告知、予約の簡便化を図るためのwebサイトでシステム構築に時間がかかってしまい、完成が10月下旬という、本事業にとってハイシーズンを逃してしまったことが「A」ではない理由である。しかし、周辺の観光協会、県内のDMOと本事業を通して繋がることができ、今後の連携につながっている。また、長野県観光機構と共に中山道を歩く外国人向けのe-Bike利用の商品開発の動きにつながっていることは想定以上の事業効果を生む可能性がある。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある